

平成２８年度第１回千葉市病院運営委員会議事録

１ 日 時 平成２８年１２月２２日（木）午後７時から午後８時３０分まで

２ 場 所 千葉市役所本庁舎８階 正庁

３ 出席者

（１）委 員 入江康文委員、中村真人委員、金子充人委員、金親肇委員、
澤田いつ子委員、山本修一委員、牧野智成委員、増田政久委員、
小林繁樹委員、池田美智雄委員

（２）事務局 齋藤病院事業管理者、中村次長

〔病院局 経営企画課・管理課〕

布施経営企画課長、谷管理課長、樋口人事・定数担当課長、
鈴木総括主幹、高澤管理課長補佐

〔病院局 市立青葉病院〕

山本院長、村上副院長、岡野副院長、安見薬剤部長、久保悦子看護部長、
神崎事務長、高橋医事室長

〔病院局 市立海浜病院〕

寺井院長、北副院長、金澤副院長、志村薬剤部長、久保ひろみ看護部長、
須田医療安全室長、柴崎事務長、鈴木医事室長

〔保健福祉局 健康部〕

加瀬健康部長、能勢健康企画課長

（３）傍聴者 １人

４ 議 事

（１）千葉市立病院改革プラン（第３期：平成２７～２９年度）の進捗状況について
（平成２７年度決算報告）

（２）千葉市立病院改革プラン（第４期：平成２９～３２年度）の策定について

５ 議事の概要

（１）議事（１）「千葉市立病院改革プラン（第３期：平成２７～２９年度）の進捗状況につ
いて（平成２７年度決算報告）

事務局から説明。

【質疑応答】

＜池田委員＞

資料１の２１頁の医業収支比率の状況は計画と実績に差があるが、そもそも計画に無理
があったのか、実行の段階で問題があったのか、原因が分からないと同じことを繰り返す
ことになると思うが、どのように考えているのか。

<布施経営企画課長>

収益は増加しているものの、思ったようには伸びておらず、それ以上に人件費などの費用が伸びている状況である。

<池田委員>

計画通りにいかないのが当たり前のような状況になっていて、このような報告を毎回聞くのは残念な気がする。もう少し保守的な計画とするなどのやり方はないのか。

<布施経営企画課長>

次の第4期改革プランでは、より実質的な収益が見込めるように、実態にあった計画としていく。あわせて、収益をいかに確保していくかについても検討していきたい。

<齋藤事業管理者>

公立病院としては、経費のかさむ病気についても積極的に取り組まなければいけない状況がある。結果的に収支が悪化する状況になっていたが、もう少し早く、病気や患者の特性などを従事者ひとりひとりが気を付けていかなければならなかったと反省している。

<入江委員長>

目標が高すぎるなど、現実性が低い計画にはしない方がよいと思う。

<中村委員>

公立病院の役割として、救急では収支が良くない夜間に受け入れることが多いと思うが、その割合はどうか。

<山本青葉病院長>

救急では約7割が夜間受入となっている。夜間にも21名の職員を配置しており、患者が少なければ当然持ち出しになる。

<入江委員長>

救急などの市民への福利厚生にあたるようなものは、病院事業会計と一緒にするべきではないのではないか。

<小林委員>

資料1の3頁、海浜病院の平均在院日数が目標より短縮できているにも関わらず、診療単価も下がっており、普通とは逆の状況になっている。これは心臓血管外科の受入停止が影響していると思う。心臓血管外科は、点数も高いが、平均在院日数も長く、材料費も高いため特殊な科と言える。その影響は除いて分析をしないと、他の部分が見えてこない。

<寺井海浜病院長>

診療単価自体は、目標よりは下がっているが、実績では平成26年度と平成27年度では大差ない。平均在院日数については、年々短くなっている。ご指摘の通り、心臓血管外科の受入停止以後に、更に短くなった。稼働率が下がっているのは、入院患者実数があまり変わらない中で、在院日数が短くなっていることによるものである。

<増田委員>

心臓血管外科については検証もしていると思うが、救急の側面が強い科でもあり、他の科と同じとして単純に比較することは難しいと思う。

<牧野委員>

資料の見せ方としての意見だが、全体を抽象化したグラフではなく、もっと細かく具体的な数字を並べた方がトレンドを捉えやすいのではないか。そのうえで、分析した方がより納得できるものとなると思う。

<山本委員>

ジェネリックの採用は80%を超えており、大変立派な数字だと思うが、薬剤全体の原価率について、現在の率とどのくらいの率を目指しているのか教えてほしい。

<布施経営企画課長>

薬剤の原価率は把握していない。

<池田委員>

資料1の10頁の海浜病院の婦人科腹腔鏡手術件数はあまり多くないように見えるが、院内の連携の問題で増えていないのか、PRが足りないのか、今後どのように増やしていくのか教えてほしい。

<寺井海浜病院長>

婦人科は常勤医が1名だけであり、医療安全上のケアも必要。医師の増員の予定もあるがまだまだ発展途上と認識している。

<入江委員長>

取組みの中で、医師の確保が困難であることに触れている箇所が多いが、これについてはどうか。

<寺井海浜病院長>

思うようには採用できていない。市内に医療機関がたくさんあって、競争になっている。教育も含めてしっかり体制を整備していかないと、千葉大学にお願いしても来てもらえないと感じている。

<山本委員>

医者がたくさんいれば良いという話もあるが、患者数に限りがあるという問題もある。急性期病院が多い中で、色々な病院に医師を配置しても、それぞれの医師が担当する症例数が減って質の低下を招く恐れもある。これについては、機能分化を進めて、個々の病院が担当する分野を集約していくしかないと考えている。

<入江委員長>

機能分化という話では、開業医と病院間の紹介患者を増やしていくだけでなく、病院と病院の間で紹介患者を増やしていくと良いのではないかと考えている。

<澤田委員>

資料1の13頁の「職員一人ひとりが使命を理解し、意識改革を進め、経営マインドを持った人材を育成する」取組みの部分で、カイゼンニュース以外に挙げられるものはあるか。

<久保海浜病院看護部長>

海浜病院では、人材育成計画の中で、看護師長クラスの職員に経営参画できるような能力を育成するシステムを運用している。

<久保青葉病院看護部長>

青葉病院では、全職員対象に経営に向けた考え方を身に付けるためにレクチャーを実施している。

<布施経営企画課長>

経営企画課からは、決算内容を両病院の管理職クラスに報告するなど情報の共有に努めている。

- (2) 議事 (2) 千葉市立病院改革プラン (第 4 期 : 平成 29 ~ 32 年度) の策定について事務局から説明。

【質疑応答】

＜中村委員＞

夜間応急診療は千葉市にとって大事な施策だと思うが、医師会としてどのように協力していけば良いのか、これから 4 年間の考え方を改革プランに入れてほしい。

＜寺井海浜病院長＞

海浜病院の夜間応急診療は、医師会と勤務医が 365 日協働しており、全国的に有名な存在である。今後もこのシステムを維持していかななくてはならない。また、海浜病院では外科系診療科がないために、患者の受入ができないというようなこともあったので、今後は外科医療を充実させていきたい。

＜入江委員長＞

千葉市の救急医療は客観的にみるとかなり進んでいるといえる。相対的な評価で市民に伝えていくことも必要ではないか。

＜中村委員＞

例えば病院の少ない緑区であれば近隣自治体の病院との連携なども選択肢に入るので、市内でも地域の特性を考慮して検討していただけたらと思う。

＜牧野委員＞

建築後 33 年経過する海浜病院の老朽化対策について、どのように考えているかお聞きたい。

＜寺井海浜病院長＞

建物自体はまだ使用できるが、給排水管が老朽化していて、破断を日常的に修繕している。その対応を優先していかななくてはならない状況である。

＜池田委員＞

地方公営企業法全部適用によるメリットのうち、これまでに得られた効果はどのようなものなのか、まだ得られていない効果は何であるのかを教えていただきたい。これ以上の効果が得られないのであれば、地方独立行政法人化なども検討の必要があるのではないか。

＜布施経営企画課長＞

青葉病院では病床利用率がかなり向上したほか、海浜病院では小児・周産期の診療体制の充実に努めており効果が出てきているところである。他の自治体では、医療職の給与等についてインセンティブを付与してモチベーションを上げるなどの事例があり、今後は、このような事例を参考に更なる取組みを検討していきたい。

＜池田委員＞

現状のモチベーションが上がっていないので、上げるような給与体系にしていくことでやる気が上がり、患者が増え、収支改善が進むということによろしいか。

＜布施経営企画課長＞

現状で上がっていないということではなく、更に上げていくという考えで検討していくということ。また、経営を戦略的に実行できる人材も必要であり、専門職の採用について研究していきたい。

<寺井海浜病院長>

伸びていく分野、地域医療としてやっていかななくてはならない分野、それぞれの収支構造を分析したうえで、まだ改善できる余地があると感じている。

<金親委員>

病院経営としてではなく、日本全体の医療費の問題だが、処方される薬が多いのではないかというジレンマを抱えることがある。治療の進行状況などが、診療情報のような形で薬剤師に伝わってくると、薬の専門家として意見が言えるかもしれない。ジェネリック医薬品の推進よりも医療費の削減につながると思う。

<金子委員>

病院経営の観点では、最近では、どこの病院でも駐車場などを有料にして、収益確保に努めている状況だと感じている。

<小林委員>

平成32年度の推計値の新規入院患者数をかなり高めに見込んでいるが、患者の取り合いになっている状況の中で、高い目標を設定していると、決算で結果がついてこない。目標については、もう少し検討を深めた方が良いのではないかと思う。

以 上

問い合わせ先 千葉市病院局経営企画課

TEL 043-245-5744